

スタンフォード大学

デイヴィッド・ラバリー教授講演会

アメリカの学校改革の歴史

ースタンダードと学校選択運動はなぜ成功したかー

2019年

11月30日

13時半～17時(13時開場)

入場無料・通訳あり



『教育依存社会アメリカ』の原著が出版されてから10年の変化を踏まえ、アメリカの学校改革の歴史と現状を分析していただきます。



【講演者】

デイヴィッド・ラバリー (David F. Labaree)

スタンフォード大学教育大学院教授(Lee L. Jacks Professor of Education)
教育社会学、教育史。アメリカ教育史学会元会長。著書に『教育依存社会アメリカ』など多数。

【指定討論者】 倉石一郎(『教育依存社会アメリカ』翻訳者)

京都大学大学院人間・環境学研究科教授。教育学、教育社会学。著書に『アメリカ教育福祉社会史序説』(春風社)、『包摂と排除の教育学』(生活書院)など多数。

【主催】慶應義塾大学学事振興基金 佐久間亜紀・藤本和久共同研究プロジェクト

【共催】京都大学2019年度『人文・社会科学の未来形発信』事業「人文学研究活動推進経費」(人環企画分:責任者 倉石一郎)・慶應義塾大学教職課程センター

お申し込み

件名に「ラバリー講演会申込」、
本文にご氏名・ご所属をご記入のうえ、
labaree20191130@gmail.comまでメールで
お申し込みください。

当日参加も歓迎ですが、11月29日正午までに申込がないと、
資料をお渡しできない可能性があることをご了承ください。

【場所】

慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎1階519教室

【アクセス】

東京都港区三田2-15-45

田町駅(JR山手線/JR京浜東北線)徒歩8分

